

1 実施方法の概要

- 実施期間
令和7年6月5日（木）～8月28日（木）（3か月間）
- 対象地区・世帯数
北区太平百合が原地区、東区北栄地区、白石区北白石地区の2,157世帯
- 実施方法・目的
容器包装プラスチックと製品プラスチックをまとめて透明または半透明の袋に入れ、週1回の容器包装プラスチックの収集日に、ごみステーションに排出してもらうことで、製品プラスチックの収集量やごみステーションの集積状況への影響を調査。

2 収集量の結果

- 3か月間の総収集量17,620kg。うち製品プラスチックは2,936kgで、16.7%相当。
- 容器包装プラスチックと製品プラスチックを合わせた総収集量と、容器包装プラスチックのみの収集量と比較すると、6月～8月の平均で19.9%増加。

※含有率=製プラ量÷総収集量

※増加率=総収集量÷容プラ量－1

		収集量 (kg)				製プラ (%)				収集量 (kg)				製プラ (%)	
		うち 製プラ	うち 容プラ	含有率	増加率	うち 製プラ	うち 容プラ			含有率	増加率				
5月 容 プラ の み	1日	1,300	－	1,300	－	－	7月	3日	1,310	178	1,132	13.6	15.7		
	8日	1,360	－	1,360	－	－		10日	1,370	196	1,174	14.3	16.7		
	15日	1,050	－	1,050	－	－		17日	1,270	158	1,112	12.4	14.2		
	22日	1,040	－	1,040	－	－		24日	1,280	141	1,139	11.0	12.4		
	29日	1,400	－	1,400	－	－		31日	1,320	166	1,154	12.6	14.4		
	小計	6,150	－	6,150	－	－		小計	6,550	839	5,711	12.8	14.7		
6月	5日	1,640	361	1,279	22.0	28.2	8月	7日	1,290	167	1,123	12.9	14.9		
	12日	1,480	314	1,166	21.2	26.9		14日	1,330	189	1,141	14.2	16.6		
	19日	1,120	242	878	21.6	27.6		21日	1,460	231	1,229	15.8	18.8		
	26日	1,250	240	1,010	19.2	23.8		28日	1,500	353	1,147	23.5	30.8		
	小計	5,490	1,157	4,335	21.1	26.7		小計	5,580	940	4,640	16.8	20.3		
合 計								17,620	2,936	14,684	16.7	19.9			

	収集量（kg）			製プラ（％）	
	うち製プラ	うち容プラ	含有率	増加率	
5月平均	1,230	－	1,230	－	－
6月平均	1,373	289	1,083	21.1	26.7
7月平均	1,310	168	1,142	12.8	14.7
8月平均	1,395	235	1,160	16.8	20.3
6～8月平均	1,355	226	1,130	16.7	19.9

※収集した製品プラスチックは、リサイクル事業者によってパレットや靴の中敷き等へリサイクル予定。

3 ごみステーションの集積状況

- 一部のごみステーションで収納ケースなど大きなサイズの製品プラスチックが出された際に、ごみ管理器材に収まりきらない場合があったが、大部分のごみステーションでは、ごみ管理器材に収まっている状況。
- 容器包装プラスチックと製品プラスチックの一括回収に関し、収集作業を行った委託事業者にはアリングしたところ、収集作業への影響や大きな負担の増加は生じなかったとの意見。

≪調査結果≫抽出したごみステーション60か所(各区20か所)における集積状況(※1)

	問題なし	追加ネット(※2)で収まっている	あふれている状態	散乱している状態
6月	95.4%	4.6%	0%	0%
7月	97.0%	3.0%	0%	0%
8月	96.2%	3.8%	0%	0%
6～8月平均	96.3%	3.7%	0%	0%

※1 期間中、毎週ごみステーション60か所の状態を確認し、月ごとの平均値(割合)を掲載
※2 市でモデル事業用に用意し、各町内会に事前配布した追加のごみネット

4 アンケート結果

- 回答数 343人
 - 集計結果(主なもの)
- モデル事業の分別方法（容器包装プラスチックと製品プラスチックを混ぜて出す方法）

①わかりやすかった（60.9%） ②どちらかといえばわかりやすかった（21.0%）

 - ごみステーションのプラスチックごみの量

①変わらなかった（46.6%） ②どちらかといえば増えた（39.4%） ③増えた（11.1%）

 - 将来の製品プラスチックの回収方法

①製品プラスチックと容器包装プラスチックを同じ袋でごみステーションに出す（77.8%）
②製品プラスチックの日を設定（13.1%） ③現行の容器包装プラスチックのみ回収（2.9%）

5 実施結果の総括

- 実施結果の総括
- 一部のごみステーションで収納ケースなどの大きいサイズの製品プラスチックが出されるといった課題があったものの、製品プラスチックと容器包装プラスチックのごみステーションでの一括回収については、概ね大きな支障もなく実施できることが確認できた。
- 今後の方向性
- 一括回収後の選別やりサイクル方法についても課題整理を行っており、今回のモデル事業で得られたデータを用いながら、引き続き製品プラスチックのリサイクルについて検討を進めていく。